

GPIFファイナンスアワード設置の目的 ～ 優秀な若手研究者の活動の振興 ～

運用手法の高度化

金融商品の多様化

社会的な要請

理論的側面の充実

学術研究態勢の強化

GPIFファイナンス・アワード

金融・ファイナンス分野で著名な内外の研究者による選考

後援

厚生労働省

文部科学省

金融庁

国家公務員共済組合連合会

第2回ファイナンスアワードの実施

対象者

平成24年4月以降、「年金積立金の運用の高度化に資する優れた研究」を行った国内の研究者（原則として大学、研究機関に所属する者。学術的な内容で研究を行った実務家を含む。）。または、日本の大学・研究機関に在籍したことのある研究者。

選考委員

ロバート・マートン	ノーベル経済学賞受賞、MITスローン・ビジネススクール教授、ハーバード大学名誉教授
ジョシュ・ラーナー	ハーバード・ビジネススクール教授
デビッド・チェンバース	ケンブリッジ大学ジャッジ・ビジネススクール教授
植田 和男	共立女子大学国際学部教授、東京大学金融教育研究センター センター長（元運用委員会委員長）
翁 百合	（株）日本総合研究所理事長（金融審議会委員）
福田 慎一	東京大学大学院経済学研究科教授（金融審議会委員）
米澤 康博	早稲田大学大学院経営管理研究科教授（元運用委員会委員長）

受賞者

野澤 良雄氏

- 東京大学教養学部卒。
- シカゴ大学MBA、PhD（ファイナンス・経済学合同学位）。
- 日本政策投資銀行を経て2013年より現職（シニアエコノミスト、連邦準備制度理事会）

受賞理由

- 社債の信用スプレッドの変動要因を整理した上で、現代的な構造モデルを用いて社債の信用スプレッドの要因を精緻に検証した網羅性の高い研究。
- 信用スプレッドというファイナンスの実務家にとって関心の高いテーマに対し、実証的な分析に基づきながら現代ファイナンス理論的な解釈を行った。実務家のみならず理論家まで影響を与える価値の高い研究。
- 権威ある専門誌に掲載されており、実力ある日本の若手研究者といえる。